

パソコンで老後一変



「お年寄りにパソコンなんて100年早いですよ！」と言われ続けて20年。

老テク研究会は米国の非営利団体「シニアネット」に倣い、65歳以上を対象にパソコンや携帯電話などの活用方法を伝えるボランティア活動を行ってきた。

今では、全国各地にシニアパソコンクラブがあり、高齢者向けのパソコン講習会やスマートフォン講座は大人気。デジタル情報機器を使いこなす高齢者は増え、インターネットの電脳空間は国境を超え、高齢社会の未来を急速に変えつつある。

高齢者がパソコン活用術を習得し、インターネット

を通じて異なる世代や地域の友人と出会い、新たな役割を獲得している。趣味や特技を生かした仕事や、社会貢献活動から新たな生きがいを発見しているのだ。

パソコンには「老化」による衰えを補う機能も多い。高齢になれば小さな文字が読みにくく、耳も聞こえにくくなる。病気の後遺症や介護などで気軽な外出が困難になる人も多い。パソコンには「文字拡大機能」や「音声」を文字に変換してくれる機能「スケジュール管理・お知らせ」機能などがある。キーボード操作が苦手な人には、「音声入力」や「タッチパネル」など使いやすい技術が次々に登場

している。しかし、まだまだ多くの高齢者は、こうした新しい技術の恩恵を「知らない」「あるは」「知っていても使えない」「習いたくても近所に教えてくれる人がいない」のが現実である。一方、情報機器やサービスを高齢者に普及させたい企業や行政の人たちは、「どうすれば高齢者に使いやすい情報機器になるのだろうか？」と困っている。

している。

しかし、まだまだ多くの高齢者は、こうした新しい技術の恩恵を「知らない」「あるは」「知っていても使えない」「習いたくても近所に教えてくれる人がいない」のが現実である。一方、情報機器やサービスを高齢者に普及させたい企業や行政の人たちは、「どうすれば高齢者に使いやすい情報機器になるのだろうか？」と困っている。



「こんどうのりこ」 1955年埼玉県生まれ。国内外のシニアネット団体の交流を支援する活動をしながら、総務省などの政府審議会を通じて政策提言を行っている。



老テク研究会の主催イベントで行ったネット利用の実況放送＝東京都渋谷区

このコラムを通じて、高齢デジタル達人たちの知恵や工夫を紹介したい。(老テク研究会事務局長・近藤則子)